

ベトナム語における呼称の扱いかた
- 『外国人のベトナム語能力測定枠』に即して -

A Study on Address Terms of Vietnamese as a Foreign Language

田原 洋樹⁽ⁱ⁾

Nguyen Hoang Minh⁽ⁱⁱ⁾

(i) 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授

Ritsumeikan Asia Pacific University (1-1 Jumonjibaru, Beppu-shi, Oita 874-8577, Japan)

(ii) トン・ドゥック・タン大学ベトナム学と外国人のためのベトナム語センター講師

Ton Duc Thang University (19 Nguyen Huu Tho, Q7, Hochiminh city, Vietnam)

要旨: ベトナム語は、親族名詞を人称詞に転用して、話者間の親疎や社会的関係に応じて呼称を使い分ける言語である。現実のコミュニケーションで適切な人称詞を使用することはベトナム語母語話者にも容易なことではない。本論では、外国人学習者に求められる呼称の知識と能力について『ヨーロッパ言語共通参照枠』をベトナム政府の『外国人のベトナム語能力測定枠』に照らし合わせて考察した。

キーワード: ヨーロッパ言語共通参照枠、外国人のベトナム語能力測定枠、親族名詞の使用、呼称

Keywords: CEFR, KNLTV, Usage of kinship term, Address

1. はじめに

我が国の外国語教育および学習において『ヨーロッパ言語共通参照枠』¹の存在感は日増しに高まっている。

日本放送協会(NHK)が放送する英語講座は、講座全体を紹介するサイトに「英語学習番組を体系的に提供しています。国際標準として学校教育にも取り入れられつつある CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) に基づいた『A1』から『C2』のレベル分けに、最初歩の『A0』を加えた 7 段階のレベル設定で番組を配置」と書いてあり²、文部科学省のサイト内を見ても児童生徒の英語力に関する情報を発信するページでは CEFR の 4 文字が否応なく目につき、その 4 文字の前には「世界基準となっている³」のような、いわば枕詞がついている。また、初等教育の現場における外国語活動の実施要項とも言うべき『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』⁴には「国際的な基準である CEFR (Common European Framework of Reference for Languages)」との明示があり⁵、さしあたり英語教育および学習では CEFR から「逃れられない」状況にあると言えよう。

もちろん、高等教育においても CEFR は全盛を誇っている。英語をはじめとする外国語教育をめぐる議論や政策文書の作成は CEFR を無視しては進むことができない感があり、CEFR の理論的背景を

¹ Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)。以下、本文中では単に CEFR と表記する。

² http://eigoryoku.nhk-book.co.jp/cefr?_ga=2.149524214.1767786672.1517050670-633830358.1517050670 (最終閲覧日 2018 年 1 月 27 日)。

³ http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1358258.htm (最終閲覧日 2018 年 1 月 27 日)。

⁴ http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_1.pdf で閲覧可能。

⁵ 前述ガイドブック p.24。

考察することや複言語主義の理解がおざなりになっているのには苛立ちを隠せない研究者も少なくない。

本論では、外国語としてのベトナム語を取り上げる。共通参照レベルの「全体的な尺度」を論ずる「ずっと前にある」根本的問題としての呼称を、母語話者教員と非母語者教員それぞれの教育実践を踏まえて考察したものである。

もともとヨーロッパの諸言語を念頭に設計されている「国際的な基準」ではあまり鑑みられていない呼称は、ベトナム語以外の言語、わけでも複雑な呼称体系を擁する言語を教授する教員にとってかなりの難題である。学習者が呼称システムに馴染むように教授することも容易ではないが、実は教育内容および到達度の可視化を「全体的な尺度」に即した記述を求められるときに、例えば A1 の「自分や他人を紹介することができる」の「自分」をどう表現するかについて、状況に応じて正しく判断して決定すること自体が基礎段階の言語使用者には難度が高い。これは、CEFR が基準として「押し付けられてくる」ことへの感情的な反発も惹起しているので、呼称問題はアジア諸語の言語能力達成度評価を研究する立場⁶から看過できないテーマである。

2. ベトナム語の人称詞をめぐって

自分をどう表現するのか、そして相手をどう表現するのかに関わるのは人称詞で、ベトナム語では人称詞の取り扱いに格段の注意が必要である。日本国内で出版されているベトナム語学習書や参考書などには、さまざまな表現での注意喚起を見出すことができる。

清水政明『ベトナム語』⁷は、大阪大学外国語学部で専攻言語として開講されているベトナム語の初学者を対象とした教科書で、大阪大学出版会により刊行されている市販の語学書でもある。同書のはしがきで以下のように述べている。

ベトナム語には無数の「私」「あなた」を表す言葉が存在し、それらをうまく使い分けられないことには、いつまで経っても皆さんは外国人のままであり、「大家族ベトナム」の一員とはみなされない。

著者の清水はベトナム語学の碩学であり、確かなベトナム語能力には筆者は当然として、多くのベトナム人研究者が敬意を抱く存在である。その清水が述べる以下の一文は、学習者を震撼させて余りあるものだろう。

かく言う筆者もベトナム語に初めて触れた時から早 25 年以上が経つが、それを完璧に使いこなせているとは到底思わない。しかし、何とか相手の気を害さない程度の心遣いができ、互いに何でも話し合える親友と呼べる人がいるので、その程度になるまでの指南をさせて頂くことは可能ではないかと自負している。こう言えるまでに、一体どれだけの回数、「私」または「あなた」を口にしたとたんに相手の顔色が一瞬にして「真顔」に変わる経験をし、眠れぬ夜を過ごしたかわからない。

また、小高泰は『ベトナム検定－ASEAN 検定シリーズベトナム検定公式テキスト』の中に「私と

⁶ 科学研究費補助金課題『アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究』（研究代表者：富盛伸夫・東京外国語大学名誉教授、課題番号：15H03224）。

⁷ 清水政明『ベトナム語（世界の言語シリーズ4）』大阪大学出版会、2011年。

あなた 呼び方を間違えると大変」の章を設けて、明快に論じている⁸。

ベトナム社会での互いの呼び方は重要だ。一人称（私）と二人称（あなた）はベトナム社会を理解するキーワードにもなる。なぜなら、人称代名詞には当事者の年齢や性別、社会的地位のすべてが表れ、それによって人間関係と距離が規定されるからだ。そのため相手によって様々な「私」と「あなた」を使い分けることになり、外国人には理解しづらい。

相手が同じでも、人間関係や距離の変化に応じてさまざまな人称詞を使い分ける場面を描写しつつ解説したのが田原洋樹『くわしく知りたいベトナム語文法』⁹の一節である。

わたしが最初にベトナムへ行った 20 代前半のころは、出会うベトナム人は自分よりも年上ばかりでした。ベトナム人と話すときの 1 人称は **em** が多く、ベトナム人から呼ばれるときも、やはり **em** が多かったです。(中略) フォー屋の女主人にも **em** で呼ばれました。

(中略) 学生時代に通ったフォー屋へ、久しぶりに出かけました。フォー屋の女主人が、こう声をかけてきました。

に続けて、

女主人は、かつてのような **em** ではなく、**chú** を使って話しかけてきます。

と書いてある。この **chú** は叔父の意味であるが、人称詞としては自分の父親よりも年下の世代の男性を呼ぶ 2 人称であり、自分の甥や姪の世代に当たる相手に対しての 1 人称として用いる。ただ、それ以外にも社会的用法があり、

chú には、年下の男性を礼儀正しく丁寧に呼ぶ働きがあるのです。フォー屋さんは、昔からのなじみ客が立派に (?) 成長して社会人になった、そして食べに帰ってきてくれたから、親しみと丁寧さを併せ持っている **chú** で呼んでくれた (後略)。

とある。人称詞の多くは、もともとは親族名詞であり、相手との相対的關係に応じて選択して行くのだが、このような使いかたも知っておけば役立つことが多い。

また、ハノイ文化大学のホアン・キム・ゴックは「ベトナム語の人称詞はとても豊かであり、かつ複雑だ。コミュニケーションは、礼節や礼儀正しさ、節度が十分に考慮され、ベトナム社会の決まりごとや文化の枠組みに即して行われたときに、よきものとなる」と述べ、人称詞の用いかたにベトナム人自身も細心の注意を払っていることを明らかにしている¹⁰。

ここで人称詞についての筆者らの「立ち位置」を明らかにしておく。著書や教室内での指導、さらにベトナム語学習者との日常的なコミュニケーションにおいて、人称詞をベトナム語母語話者と同レベルに使い分けることを、とりわけ初学者に求めないようにしている。つまり、言語知識として、人

⁸ 小高泰監修『ベトナム検定 ASEAN検定シリーズベトナム検定公式テキスト』めこん、2010年。

⁹ 田原洋樹『くわしく知りたいベトナム語文法』白水社、2011年。

¹⁰ Hoàng Kim Ngọc, Từ xưng hô và văn hóa giao tiếp, “Tạp chí nghiên cứu Văn hóa”, Trường Đại học Văn hóa Hà Nội, 2011.

称詞に関するさまざまな情報を与えることや得ることの重要性は認めつつ、過剰な恐怖心を抱かせずに、まずはベトナム語を「口に出してみる」ことを説くのである。こうした姿勢は、筆者らが関わっている教科書や市販語学書の編集方針としても貫かれていて、教室内での活発なコミュニケーションの源泉となっている一方で、ベトナム人同士の「自然な」やり取りとは距離があって、母語話者の「自然さ」を追い求めたい教師からの批判も聞こえてくる。

人称詞の扱いかた自体がベトナム語教育における大きな問題であり、言語教育観を映し出す鏡である。アジア諸語における CEFR 受容を考えるときに「ずっと前にある」根本的問題、と述べたのは、まさにこの点による。

3. 外国人学習者の能力測定枠

ベトナム語における人称詞の使い分けの重要性は多くの先達が説いてきたとおりである。では、学習者がどのように熟達していくことが望ましいのか、あるいはどのような使い分けができれば、その話者の熟達度を判断できるのだろうか。外国人のベトナム語能力を測定する指標に『外国人のベトナム語能力測定枠』がある。

『外国人のベトナム語能力測定枠』（以下、『測定枠』）はベトナム語での正式名称を *Khung năng lực tiếng Việt dùng cho người nước ngoài*¹¹ といい、ベトナム社会主義共和国教育訓練省が 2015 年 9 月 1 日付で公布した、6 レベルからなる外国人のベトナム語能力評価の枠組みで、公布に先立つ同年 3 月には、東京外国語大学語学研究所で開催された「アジア諸語を主たる対象とした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」¹² 第 11 回研究会において、筆者の田原が『外国人のベトナム語能力測定枠（仮称）』をめぐる動き」と題した発表を行って紹介している。

『測定枠』の目的は以下の 5 点とされている。

1. 外国人のベトナム語能力を統一的に評価する根拠とする。
2. 教育プログラムおよび教育計画を設計する際の根拠とする。
3. 教員に対して教育内容、教育方法、試験方法、評価方法の選択と具現化の根拠を与える。
4. 学習者に対して学習レベル毎の内容と水準を明示し、自己評価を可能にする。
5. CEFR を用いる諸国との間で教育交流、公文書交換、単位互換を容易にする。

なお、CEFR との対応については『測定枠』第 2 章に示されている。

『測定枠』		CEFR
初級	1 段階	A1
	2 段階	A2
中級	3 段階	B1
	4 段階	B2
高級	5 段階	C1
	6 段階	C2

¹¹ <https://thukyluat.vn/vb/thong-tu-17-2015-tt-bgddt-khung-nang-luc-tieng-viet-cua-nguoi-nuoc-ngoai-4696e.html>（最終閲覧日 2018 年 1 月 27 日）。

¹² 科学研究費補助金課題『アジア諸語を主たる対象とした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究』（研究代表者：富盛仲夫・東京外国語大学名誉教授、課題番号：24320104）。

4. 外国人学習者のための現実的な使い分け

ここまで見てきた問題に対するひとつの試案が、以下の「CEFR と『外国人のベトナム語能力測定枠』に対するベトナム語の呼称」である。筆者らの本務校である立命館アジア太平洋大学、トン・ドゥック・タン大学における外国語としてのベトナム語の授業での経験に鑑みて、この試案ではまず『測定枠』6 レベルそれぞれにおいて使用が期待される人称詞を示し、次にコミュニケーションにおける用法を記述した。そして、最後にいわゆる *can-do* を提示した。なお、表中で CEFR レベルの下の数字が『測定枠』におけるレベルを示している。

CEFR	当該レベルにおいて使用が期待される人称詞	コミュニケーションにおける用法	運用能力についての記述
A1 1	1S ¹³ : <i>tôi, em.</i> 2S: <i>ông, bà, anh, chị, em, bạn.</i> 3S: <i>ông ấy, bà ấy, anh ấy, chị ấy, bạn ấy.</i> 1P: <i>chúng tôi, chúng em.</i> 2P: <i>các ông, các bà, các anh, các chị, các em, các bạn.</i> 3P: <i>các ông ấy, các bà ấy, các anh ấy, các chị ấy, các em ấy, các bạn ấy.</i>	他者とのコミュニケーションで自分について述べる。一般的には <i>tôi</i> を、教室内で教師と話すときには <i>em</i> を用いる。 2人称および3人称に用いる人称詞のうち最も基本的なものを使う。	相手との社会的関係、年齢や性別に応じて、リストに掲げられた最も基本的な人称詞を適切に使い分けて、日常会話を行うことができる。
A2 2	1S: <i>tôi, em.</i> 2S: <i>ông, bà, anh, chị, em, bạn, thầy, cô.</i> 3S: <i>ông ấy, bà ấy, anh ấy, chị ấy, bạn ấy, cô ấy, nó.</i> 1P: <i>chúng tôi, chúng ta, chúng em</i> 2P: <i>các ông, các bà, các anh, các chị, các em, các bạn, các thầy, các cô.</i> 3P: <i>các ông ấy, các bà ấy, các anh ấy, các chị ấy, các em ấy, các bạn ấy, các cô ấy.</i>	1人称単数を用いて自分の意思や要求を伝える。1人称複数(除外形)を用いて自己が所属する集団の陳述や報告を行う。1人称複数(包含形)を用いて聞き手に誘いかける。	1人称複数の除外形と包含形の使い分けができる。また、1人称複数除外形では、相手との社会的関係および年齢差に応じた使い分けができる。

ベトナム本国ではない、例えば日本国内の大学におけるベトナム語の教育を考えると、ベトナム語専攻(授業時間、週当たり概ね450分)では1箇年で到達が見込まれるラインがここである。なお、第二外国語ないし初修外国語科目では、週4コマ(授業時間で概ね360分)を1箇年でA1、週2コマ(同概ね180分)では3箇 Semester ないし2箇年でA1到達というのが、筆者らの教育経験に基づく現実的な(やや悲観的な)レベルである。したがって、以下のリストは主としてベトナム国内

¹³ 1人称単数の意。以下1Pは1人称複数、2Sは2人称単数などを表す。

を教育環境として想定したものである。

CEFR	当該レベルにおいて使用が期待される人称詞	コミュニケーションにおける用法	運用能力についての記述
B1 3	(A) 職業や職務・役職に応じた呼称詞。giám đốc (社長), bác sĩ (医師).... (B) 1S, 2S, 1P, 2P: mình. (C) 3P: họ, chúng, chúng nó.	(A) 一般的な職業や職務・役職を示す語を用いて、丁寧に、かつ敬意を持って他者に話しかける。 (B) 相手との心理的距離や親疎を判断して mình を使い分ける。 (C) 親しい相手との会話で、第三者について言及する。	(A) 相手の社会的地位や自分との社会的関係に応じて、職業や職務・役職を示す語を適切に使い分けて話しかけることができる。 (B) 親密な、または良好な交友関係にある他者との会話において、自称の mình と他称の mình を正しく使い、親しく会話できる。 (C) 3P で使用する人称詞の差異を理解して、コミュニケーションの場面に応じて適切に使い分けることができる。
B2 4	(A) 職業や職務・役職に応じた呼称詞。nhà giáo (教育者), nhà báo (ジャーナリスト), luật sư (弁護士), nghệ sĩ (アーティスト), diễn viên (俳優).... (B) 1S, 2S, 1P, 1S: 親族名詞に由来する語。anh (兄), chị (姉), em (弟や妹)....	(A) さまざまな職業を示す語を適切に用いて、丁寧に、かつ敬意を持って他者に話しかける。 (B) 親しい間柄での会話で、自分の性別、相手との年齢差に応じて自称に用いる語を選択する。	(A) 相手の社会的地位や自分との社会的関係に応じて、職業や職務・役職を示す語を適切に使い分けて話しかけることができる。 (B) 親族名詞に由来する語を、相手との関係に応じて使い分けて自称することができる。

このうち B2 の(B)では、たとえば自分・自分よりも年長者・自分よりも年少者の三者で会話する場合に、年長者と年少者に対して自称の語を終始使い分けるのは、外国人にとって決して容易ではない。ベトナム留学中に友達の家と呼ばれて、友達の兄弟と会話する場面などがこれに相当する。

また、もともとはさほど親しくない関係だったのが親密な間柄に発展したケースでは、親族名詞に由来する語を使用することが期待される。さもないれば、ベトナム人に「よそよそしさ」を感じさせる恐れがある。他方、親しくない相手に B2 の(B)で会話すると不自然な「馴れ馴れしさ」を惹起させることに繋がる。

CEFR	当該レベルにおいて使用が期待される人称詞	コミュニケーションにおける用法	運用能力についての記述
C1 5	1S: tao, tớ. 2S: mày. 3S: hắn, ông ta, bà ta, anh ta, chị ta, hắn ta. 1P: chúng tao, chúng tớ. 2P: bọn mày, chúng mày, chúng bay. 3P: chúng, bọn chúng.	極めて親しい間柄でコミュニケーションする。逆に、公的な場面や礼節を重んじるコミュニケーションの場ではこれらの語を意図的に排除する。	「俺」「あたし」や「お前」「あんた」に相当する語句を使い、極めて親しい相手と円滑に会話して楽しむことができる。 3S では <i>ây</i> と <i>ta</i> の差異に熟知して、ニュートラルな表現としての <i>ây</i> と、親密感や侮蔑の気持ちを表す <i>ta</i> を適切に使い分けることができる。 また、3P では「彼ら」と「奴ら」に相当する語句を場面や相手に応じて適切に使い分けることができる。
C2 6	(A) 政府や公的機関の重要役職、学位などの語。Thủ tướng (首相), Bộ trưởng (大臣), ngoại trưởng (外相), tổng thống (大統領), giáo sư (教授), tiến sĩ (博士)... 尊称。ngài (閣下)... (B) 1S, 2S, 1P, 1S:親族名詞に由来する語。cụ (老), ông (祖父), bà (祖母), bố (父), mẹ (母), bác (伯父、伯母), chú (叔父), cô (叔母), cậu (叔父), dì (叔母), anh, chị, em, con (子), cháu (孫、子...)... ¹⁴	(A) 政府要人との会話、社会的地位が高い相手との社交において、相手の立場を敬って会話する。 (B) 親しい間柄で、相手と自分の年齢差や立場に配慮して会話する。	(A) 礼儀が重視される社交的場面で、必要かつ十分な敬意を込めたコミュニケーションを取ることができる。 (B) 親しみの気持ちを込めつつ、互いに心地よい会話を楽しむことができる。

かつて筆者と親交があった政府高官は、執務室での会話においては役職を示す語を用いて田原を他称した。一方で執務外の個人的な付き合いでは *chú* と自称、田原を *cháu* と他称し、自らも *chú* と呼ばれることを好んだ。つまり、同じ相手でも場面に応じて呼称を「切り替える」ことが要求されるのだ。

また、ベトナム留学中の学生なら、友達の家や郷里に招かれたシーンを想定してみたい。友達の両親と話すとき、相手を *bác* ないし *chú* や *cô* で、自分のことは *con* または *cháu* と呼ぶ。1対1の会話ならともかく、家族揃って食卓を囲んでの団欒となれば、相手に応じてさまざまな1人称、2人称を使い分けなければならない。

¹⁴ ここに挙げた語は南北の地域差が激しい。

自分の名前を述べて簡単に自己紹介する、あるいは「元気ですか」と尋ねるような基本的な表現でさえ、「わたし」の選択が必要で、その選択には高度な知識と能力が求められる。ベトナム語の教科書、市販教材で出てくる1人称 *tôi* は「わたし」というよりは「私（わたくし）」で、使用範囲は極めて限定的である。上述のベトナム人家庭における団欒のような場面で *tôi* を使用すると白けてしまい、友達の家族に正しい呼称をアドバイスされることも多い。

5. まとめ

ここまで述べたように、ベトナム語には独特の呼称システムがあり、ベトナム人との付き合いが深まるにつれて、より複雑で高度な使い分けが要求される。他方で、相手との関係や年齢差、親愛の気持ちや侮蔑の意図など、その時々場面や感情に応じて呼称を選択してコミュニケーションを楽しむことも可能である。

よって、学習者のレベルに応じて、簡素な語彙リストを提示し馴染ませることや、さまざまなコミュニケーションの場面を想定して練習させることが大切である。母語話者教師には寛容さが必要で、非母語話者教師は自己の言語知識を開陳して網羅的に「教え込んでしまう」ことを回避する姿勢が求められるだろう。

なお、文学作品や歌謡曲における呼称、裁判など司法の場面で用いられる呼称、芸能人の呼称など、本論以外の呼称も興味深い課題である。ベトナム文学研究、捜査や法廷内でのベトナム語による実務では、呼称に関する正確な理解と確実な運用能力が不可欠であることを申し添えたい。

謝辞

執筆に際して、グエン・ヴァン・フエ博士（トン・ドゥック・タン大学ベトナム学と外国人のためのベトナム語センター長）から助言を受けた。ここに記して感謝する。

参考文献

- 小高泰 監修『ベトナム検定 ASEAN検定シリーズベトナム検定公式テキスト』めこん, 2010.
清水政明『ベトナム語（世界の言語シリーズ4）』大阪大学出版会, 2011.
田原洋樹『くわしく知りたいベトナム語文法』白水社, 2011.
Bộ Giáo dục và Đào tạo, “Khung năng lực tiếng Việt dung cho người nước ngoài”, 2015.
Hoàng Kim Ngọc, “Từ xưng hô và văn hóa giao tiếp”, “Tập chí nghiên cứu Văn hóa”, Trường Đại học Văn hóa Hà Nội, 2011.

執筆者連絡先：tahara@apu.ac.jp, nguyenhoangminh280481@gmail.com

本稿は科学研究費助成事業基盤研究（B）「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」（2015年度-2017年度、研究代表者富盛伸夫、研究課題/領域番号15H03224）の研究成果のひとつとして公開するものである。